

キトラ古墳石室内部の朱雀

西年最後のこのコーナーは、朱雀でメ。すっかりおなじみになったキトラ古墳の朱雀ですが、どれくらいの大きさか知ってました？

じつはこの写真の朱雀、本物と同じ大きさなんです。残っている絵の左右が39cm、上下は15cmです。石室の床からおよそ90cmのところで、朱雀は羽ばたいており、尾羽の先から21.5cmいくと東の壁にあたります。印刷された朱雀にはいくら顔を近づけても大丈夫ですが、実物はとてもとても。

さて、キトラ古墳の壁画は、どのように描かれたのでしょうか。それを解く鍵がここに写し込まれています。朱雀の尾羽先端部をよく見てください。いちばん長い尾羽の上に、ひっかいたような細い線があります。これは、先の細いヘラで漆喰に跡をつけた、下書きの痕跡です。同様の線は北壁の「玄武」や西壁の「白虎」、東壁の十二支「寅」像、そして天井の天文図でも確認できました。

薄い紙か布に描かれたお手本の絵の輪郭などをヘラでなぞって壁に写しとったのです。そして、それに彩色をおこなって壁画は完成したのでした。狭い石室の中でのこの作業、さぞや息の詰まるものだったでしょう。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部 花谷 浩)

